

プロジェクト ASAF 対応

項目 開示（豪州会計基準委員会が公表した小論文）

はじめに

1. IASB は、財務報告の開示の質及び量に関する懸念への対応を継続的に行っており、ASAF 会議においても開示を重要なテーマとして取り上げている。
2. 第 2 回 ASAF 会議では、開示フォーラムに関するフィードバック文書(審議事項(1)-3 参照)に関する議論を行う他、豪州会計基準委員会(AASB)が 2013 年 8 月に公表した開示及び表示に関する小論文について議論を行う。本委員会においては、その概要説明を行う。

公表の経緯

3. 豪州会計基準委員会(AASB)は、2013 年 8 月に小論文 AASB Essay 2013-1「経済的意思決定の目的から開示及び表示フレームワークへの道筋の再検討 (Rethinking the Path from an Objective of Economic Decision Making to a Disclosure and Presentation Framework)」を公表した。
4. 小論文では、概念フレームワークの目的レベルとそれよりも下位のレベルの間に“Missing link”が存在しており、そのギャップを埋めることを主張している。会計上の構成概念や対応を検討する前に“企業の経済状態 (economics of the entity)”に焦点を当てており、質的特性、構成要素及び測定に関する概念を検討する前に識別すべき企業の一般的な特徴についてより多く検討している。

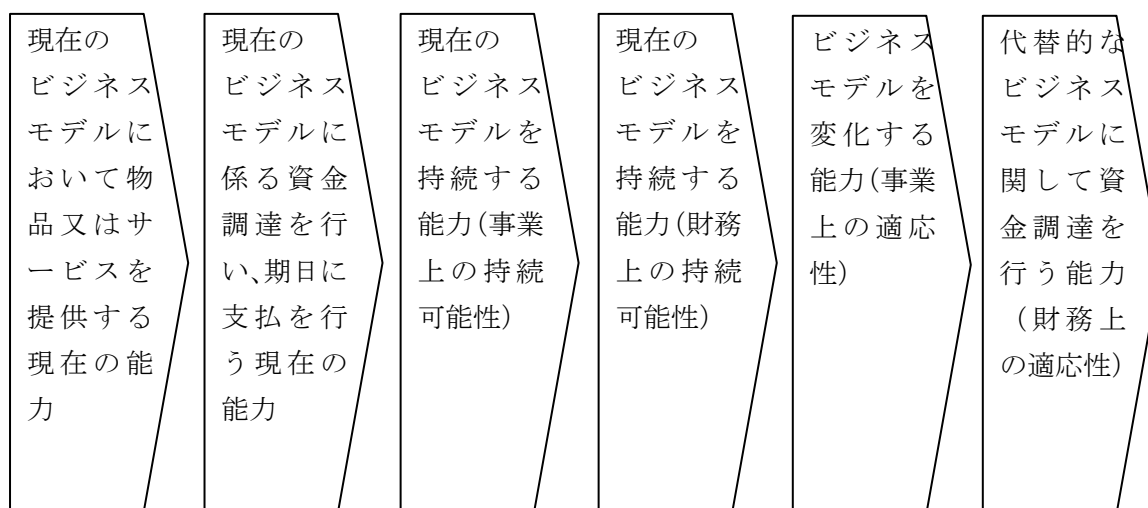
AASB が主張するヒエラルキー



5. 小論文では、財政状態などの会計関係者により馴染みのある用語を使わずに、“ストック”及び“フロー”という用語を用いている。

ストック及びフロー

6. “ストック”は、ある時点における企業の累積したポジション、属性又は地位 (accumulated positions, attributes or standings of an entity) とされている。以下の6つのストックは、財務諸表を利用する際に利用者がアクセスしたいと考えるものを表している。



7. “フロー”は、ある期間におけるストックの変動とされている。
8. 小論文は、基準設定主体は、開示がストック、フロー及びそれらの相互関係を適切に記述しているか検討する必要があると主張している。現行の IFRS は、企業が物品又はサービスを提供する能力に関する開示要求があるが、それらは包括的でなく、また、持続可能かどうか、持続可能でない場合に適応できるかに対して直接的に適合していないと分析している。
9. 小論文は、ストックとフローを忠実に表現することにより、目的に導かれた開示及び表示を達成できると主張している。

ディスカッション・ポイント

- ・ AASB の小論文に関してコメントがあれば頂きたい。

以 上